



千葉大学

〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33
入試課 TEL 043-251-1111(代)
https://www.chiba-u.ac.jp



「知の共鳴で未来を拓く」 世界に冠たる独創的な研究と 高度人材の育成で社会に貢献

SUMMARY

「つねに、より高きものをめざして」の理念のもと、2025年度から新たなビジョン「生命、環境、そして社会へ。知の共鳴で未来を拓く千葉大学」を掲げています。このビジョンは、「研究」「教育」「社会貢献」「経営」「信頼」の5つの柱と、3つの行動指針から構成され、千葉大学がこれからの時代に果たすべき使命と進むべき道を明確に示しています。

11学部9大学院を有する総合大学として、全員留学などの「ENGINEプラン」や、社会課題に対する解決力を育むプログラムにも注力。多様な知が響き合うキャンパスで一人ひとりが自らの可能性を存分に発揮し、人と社会を豊かにしていく——そんな世界をリードする人材の育成を目指しています。



よこてこうたろう
横手幸太郎学長

1988年千葉大学医学部卒業。1996年スウェーデン国立ウプサラ大学大学院博士課程修了。1998年千葉大学大学院博士課程修了。2021年慶應義塾大学で経営学修士取得。24年4月から現職。

PICK UP キャンパスごとに広がる、多彩な学びの世界

(1) 全学副専攻プログラム

総合大学として、人文社会科学、自然科学、生命科学のあらゆる教育研究が行われている強みを生かし、所属学部によらず多様な分野の授業科目を履修できる体系。修了要件を満たした場合は、修了証書もしくはオープンバッジ（修得した知識やスキルを証明するデジタル証明書）が交付される。



2025年夏に新築された工学・情報学系講義棟（西千葉キャンパス）



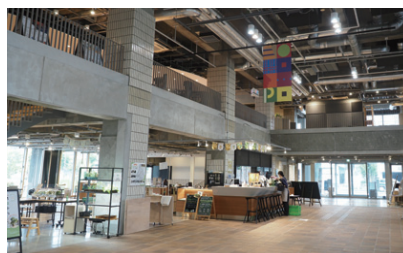
医学部・医学研究院等のアクティブ・ラーニング・スペース（亥鼻キャンパス）

(2) パンチプログラム

全学副専攻プログラムと同様に学部を問わず履修可能。イシュー（課題）について体系的に学修できるよう授業科目を組み合わせているほか、小さなまとまり（6～10単位程度）とすることで、より学びやすい仕組みとした。各プログラムの要件を満たした場合にはオープンバッジが発行される。



園芸学部がある松戸キャンパスの庭園



1階を地域の実証実験空間として開放している墨田サテライトキャンパス

01 豊富なプログラムで「全員留学」を推進

界に開かれた学びを経験できる環境を、と2020年に開始した千葉大学グローバル人材育成「ENGINE」。国公立の総合大学として初となる学部・大学院生の「全員留学」、スマートラーニングの実践強化、英語教育の改革を三本柱に進めています。在学中は、原則として最低1回の海外留学を求めている。10日間程度の短期プログラムから3～6か月の語学留学、半年から1年間の交換留学などさまざまな選択が可能です。また、日本にいながら海外留学と同等の効果が得られるオンラインプログラムもあります。

2025年度に全学で募集した留学プログラムのうち、実際に海外に渡航したのは69プログラム1690名で、オンラインでは11プログラム310名が履修しました。

国際情勢の変化やデジタル技術の進展、学生ニーズの多様化などをふまえて、2026年度からは、ENGINEの第2フェーズとなる「ENGINE 2.0」を開始し、個々の可能性を最大限に引き出す、より高度で実践的な教育を進めていきます。

現在、シャリテ・ベルリン医科大学（ドイツ）、キングモント工科大学トンブリ校（タイ）、カリフォルニア大学サンディエゴ校（アメリカ）の3つの海外キャンパスをはじめ、上海交通大学（中国）及びキングモント工科大学トンブリ校（タイ）との国際共同研究センター、3つの海外



02 多数の副専攻とパンチプログラムを実施

土課程教育は「普遍教育」と「専門教育」を密接に連携させたカリキュラムを構築しています。普遍教育科目は、英語をはじめとした国際発展科目群、地域科目などの地域発展科目群、教養コア科目や数理・データサイエンス科目などの学術発展科目群の3つに分類されます。

さらに、専攻分野以外の幅広い知見に触れ、国内外を問わず社会で活躍できる能力を身につけることができるよう、普遍教育と専門教育の垣根を越えて体系的、学際的に学ぶ「全学副専攻プログラム①」や「パンチプログラム②」を多数提供しています。今後も総合大学の豊富なリソースを活用し、さまざまな社会課題に対応したプログラムを実施していきます。

03 アントレプレナーシップ教育を全学展開

2025年4月に設置した「アントレプレナーシップセンター」は、これまで千葉大学が人材育成で取り組んできた「グローバル」「課題解決」「イノベーション創出」の融合を軸に、「社会課題からバックキャストして新たな価値を創造できるアントレプレナー人材の育成」を目指しています。学内に分散していた関連科目を体系的な教育プログラムとして再編するとともに、国内外の大学・自治体・企業等と連携した実践的な講義や体験型プログラムを展開しています。

横手学長は、「アントレプレナーシップと聞くと、会社を立ち上げる『起業』をイメージす

04 新たなイノベーションの創出を目指して

千葉大学は、日本の研究力強化を図るため、文部科学省と日本学術振興会が進める「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-P EAKS）」に選ばれた25の大学の一つです。

特色ある取組の一つとして、柏の葉キャンパスに整備したBright Open Innovation Hub（BOH）では、大学・企業・地域が連携して作り上げるオープンイノベーションの実現を目指し、さまざまな活動を展開しています。

その一つが、遺伝子組換え技術を応用した「飲むワクチン（経口ワクチン）」の研究開発です。日本はもとより世界的にも珍しい技術で、ワクチンの有効成分となるタンパク質をお米の中に生成し、収穫したお米を医薬品の原薬として利用します。針を刺さず口から接種でき、常温保存も可能なため、注射が苦手な人や、ワクチンの管理や衛生上のリスクが課題になっている国や地域などへの活用が期待されています。

本ワクチンの安全性や効果を確認するため、2026年7月、千葉大学医学部附属病院に「臨床薬理センター」を設置し、第一相（健康な人が対象）の臨床試験に取り組んでいます。

05 志願者数は11年連続1位 学生を全力でサポート！

このように、社会のニーズに寄り添いながら、研究成果を社会に実装することで、地域社会と国際社会の双方に貢献する研究大学として発展を加速させ、千葉大学を核としたイノベーション・エコシステム構築を推進します。

一般選抜の志願者数が、2026年度入試では1万1783人と、11年連続で1万人を超え、国立大学の中で11年連続1位に輝きました。東京や成田空港からも近く立地的にも非常に恵まれた環境にあり、教育・研究の充実、キャリア支援や奨学金など学生生活を支える取組が、多くの受験生から評価された結果といえるでしょう。入学料や授業料の免除や大学独自の奨学金を各種用意するなど、大学院生の支援にも注力しています。



BIHのオープンスペース

入試では、外国語検定試験を国立大学の中でいち早く個別学力検査に導入するなど、独自の入学試験を展開し、記述式問題を重視して受験生の論理的思考力を評価しています。また、特別選抜の募集人員を増やすなど、主体性のある学生の募集にも力を入れています。

横手学長も「このような中で、自ら考え将来を判断する力を養い、国際的な感覚を身に付けてグローバル社会で活躍できるリーダーとして社会に羽ばたいてみませんか。私たちはあなたの夢や希望を叶える学修環境を提供します」と高校生にメッセージを送っています。